学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白 1丁目5番1号
電話（3986）0221内線2607
http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~press/
press @ gakushuin.ac.jp
発行・編集人 小倉 剛
年間500円

f-Campus 今年度の利用状況

提供科目数は増加 一方で申請件数大幅減

昨年度より開始された五大学単位互換制度（通称・f－Campus）の今年度の利用状況が、教務課から発表された。学生の利用件数は昨年に比べ約五割減少したものの、全体の当選確率としては上昇した。申請件数は、昨年に引き続き本学へは多く、本学からは五大学中最少となった。

開始二年目のf－Campusは、提供科目数の増加とは対照的に、学生の申請件数は初年度を大幅に下回る結果となった。五大学全体の提供科目数は、昨年度の一、〇四五科目から六〇〇科目増加し、一、六四五科目となっている。しかし学生の申請件数は昨年度の四、〇〇〇件弱から二、〇〇〇件弱へと約二、〇〇〇件もの激減となった。

また本学学生による申請件数も三〇〇件から五割弱の一六三件へと減少した。これは昨年度と同様、五大学中最少となっている。四月初旬に一次登録申請が、オンライン上でのみ実施され、今年度の二次申請は行なわれなかった。

各大学の提供科目数は、早稲田大九八七科目、立教大二五九科目、日本女子大二三〇科目、本学一三〇科目、学習院女子大三九科目である。受け入れ大学別の当選件数は提供科目の圧倒的多さもあってか、早稲田大が五九三件で最も多かった。比較的競争率が高かったのは学習院女子大と早稲田大である。本学からの申請件数は表1にあるように、早稲田大一〇二件、日本女子大三〇件、立教大二八件、学習院女子大三件。全体の当選確率が平均八割の中、本学は唯一申請科目の全てに当選した。

一方、本学提供科目に対する受け入れ他大学生件数は、早稲田大一四六件、立教大五四件、日本女子大四六件、学習院女子大二八件で、当選確率は八七・五％と高めであった。

今年度全体で申請件数の多かった科目は、表2の通りである。早稲田大が半数を占めたが、他の四大学はほぼ同数となった。人気を集めた科目は、昨年度とは約半数が入れ替っている。総合科目よりも専門科目が多く、大学による分野の違いがみられた。

教務課は、今後の展望として、「この制度が、本学にない授業を受講する機会の拡大に留まらず、他大学と本学との学生交流を深める契機となればと願っている。履修申請時期は四月初旬であり早いが、三月下旬に受け取る成績表や時間割をもとに、履修計画を早めに立てていただきたい」と述べている。開始されてわずか一年、まだ定着してはいないようだ。しかし大学の枠を超え、自分の世界を広げる機会を提供するこの制度の、積極的な利用が望まれる。

f－Campusについての詳細はf－Campusバーチャル事務局ホームページへ。
http://www.f-campus.org/

本学提供科目に対する他大学学生の申請・当選状況（受け入れ）

	申請（左/件数 右/割合）		当選（左/件数 右/割合）		当選確率
学習院女子	37	11.8%	28	10.2%	75.7%
早稲田	158	50.5%	146	53.3%	92.4%
日本女子	62	19.8%	46	16.8%	74.2%
立教	56	17.9%	54	19.7%	96.4%
合計	313	100.0%	274	100.0%	87.5%

他大学提供科目に対する本学学生の申請・当選状況（送り出し）

	申請（左/件数 右/割合）		当選（左/件数 右/割合）		当選確率
学習院女子	3	1.8%	3	1.8%	100.0%
早稲田	102	62.6%	102	62.6%	100.0%
日本女子	30	18.4%	30	18.4%	100.0%
立教	28	17.2%	28	17.2%	100.0%
合計	163	100.0%	163	100.0%	100.0%

表1

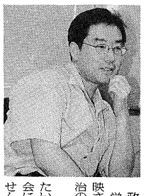
申請件数の多い5大学交流提供科目

設置科目大学名	科目名	担当教員名
早稲田	広告クリエイティブ論	嶋村和恵他
早稲田	映像文化論A	高橋世織
日本女子	調理実習	高増雅子
学習院女子	現代文化論Ⅰ	上野俊哉
学習院	性格心理学	吉川眞理
日本女子	調理実習	高増雅子
早稲田	映像論	森田典正
早稲田	ピラミッド文明論	吉村作治
早稲田	エジプト文明論	吉村作治
立教	遊びと人間	松尾哲矢
早稲田	映像文化論B	高橋世織

※科目は申請件数の多い順

表2

学習院 研究最前線 学問研究の「いま」



今回は、経済学科の小西秀樹教授です。公共経済学を専攻し、政治の分野にまで視野を広げられている先生。現在の研究テーマである財政再建を中心にお話を伺いました。

（取材・構成 松村芳武）

◇ ◇ ◇

公共経済学とは

先生は大学院生時代に「最適課税」について、「税の体系はどうあるべきか」という研究を進めていた。しかし、その実行可能性を見て、実際に政策が決められる「過程」まで考慮しなければならないと痛感したという。

「公共経済学の分野では政府の政策などを規範的、実証的に分析します。しかし、私たち学者が議論しても実際に政策はなかなか変わりません。『こうあるべき』だけではなく、『こういうふうに決められている』ということも研究する必要があるのです」

政治の弊害

学者が議論しても、見解が政治に反映されることは少ない。その原因は政治のシステムにあるという。

「総理大臣が国民の望む法律を作りたいと思っても、内閣として法案を国会に提出し、通過させなければなりません。しかも、その法案は総理本人ではなく、関連省庁の官僚が作成します。その官僚の後ろには関連する業界や団体があり、利害も絡んできます」

政治家は有権者を、官僚は利権団体を意識する。そうした裏事情も認識しなければならないとの指摘だ。

「財政再建から見えるもの」

経済学部経済学科 小西秀樹 教授

問われる有権者の『目』

財政再建を研究

そうした上で先生は財政再建政策に力を入れて研究をしている。

「傾いた財政を立て直すためには、赤字の削減が必要です。そのためには財源である税収が支出を上回らなければなりません。ここで、支出の削減と増税のどちらを選択するかが問題となります。しかも、どちらを選ぶかで、政権の命運も左右しかねません」

最近の海外の研究で、『増税なき財政再建』を行った政府は選挙に勝ち、長期政権になる傾向があることが分かってきた。先生はそれを説明する理論を打ち立てたいと考えているそうだ。

「増税で財政再建をすると、若者からお年寄りまでが税金を負担することになります。それでも、お年寄りは先が短いので、増税されて困るのは、相対的には若い世代の方です。一方、支出削減で行う場合はどうでしょう。世界的な傾向として、医療や年金といったお年寄りに利益のある支出が多くなっているので、支出を減らすことはお年寄りにとって不利になります。ですから『増税なき財政再建』というのはお年寄りに比べ、若い人たちに有利な政策と言え、政権を長続きさせる秘訣だと解釈できるのです。つまり、財政再建政策は投票者に対して、その政治家がお年寄りと若者のどちらを優遇しているかを示す『シグナル』になると考えられるのです」

若者に有利な政策を行うと政権が安定する。かつその財政再建政策自体を長続きさせる結果にもなるという。

財政赤字の見直し

『増税なき財政再建』を実行することは財政赤字の削減を意味する。

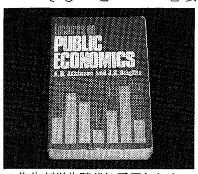
「もう一つ、財政政策の進め方として、ブキャナンという学者が主張してきた『均衡予算ルール』があります。これは各分野に予算を均等に配分することで、政府が勝手に財政赤字を出すことを法律で禁止しようとするものです。しかし、このような考え方は間違っているのではないかと思うようになりました。この『均衡予算ルール』の場合、税収と支出は一致するので、税収が増えれば支出も増えます。すると、財政政策が政治家を見分ける『シグナル』としての役目を果たせなくなり、過大な支出が温存されてしまうのです」

こうした先生の研究は政治に無関心な有権者へ警鐘を鳴らしている。そして、私たちの政治に対する目を変えてくれるかもしれない。

プロフィル

小西秀樹（こにし・ひでき）

一九六二年兵庫県生まれ。八六年東京大学経済学部卒業。九四年同大学経済学博士。その後成蹊大学助教授、東京都立大学助教授を経て、二〇〇〇年より本学経済学部教授に就任。専門は公共経済学。



先生が学生時代に愛用した本

甲南戦、四大戦 本学で開催

四月二十七日、百周年記念会館において対甲南大学運動競技定期戦（以下甲南戦）の開会式が行われた。第四十七回となる今年度は本学が開催校となっている。式には学長をはじめ本学の教職員、また甲南大体育会本部員、本学運動部常任委員、体育会学生百二十人が参加。甲南戦について運動部常任委員会（以下運常）は「甲南戦で本学は過去四十六回中、たったの二勝しかしていません。今後、着実に力をつけていき、いつかは勝利を手にすることを祈っています」と意気込みをコメントした。

また、今年度は本学が四大学運動競技大会（以下四大戦）の当番校にもなっており、運常では開催までのカウントダウン掲示板を設置するなどして、応援を呼びかけている。この掲示板は四大戦が終わる十月末まで設置されるもので、カウントダウンのほか、得点板と掲示板を兼ねたもの。輔仁会館脇に設置されており、四大戦正式種目の得点をリアルタイムに掲示する。「四大戦は一般学生と体育会の学生が一つになれる唯一の大会であり、本年度も全力を尽くして優勝してもらいたいです。二十三連覇を目指し学習院の確固たる力を築き上げましょう」と一般学生への積極的な参加を呼びかけている。

今回の二大会同時当番について、運常は「私たちは四大戦、甲南戦ともに学習院が勝利することを願っています。しかしもっと大切なことは他の三大学、甲南大と素晴らしい人間関係が築けることです。全力で勝利を目指し、さまざまな人間関係を築いて自分の人間性を高めてもらいたいと思っています。皆さんがんばって下さい」としている。

カウントダウン掲示板

初夏の訪れ、「めじおん」

若葉の頃、恒例の目白音楽祭（通称・めじおん）の季節がやってきた。今年も天候に恵まれ、野外での演奏に聴衆が集まる。肩でリズムをとる人や歌詞を口ずさむ人、そして二年生の演奏を見守り励ます先輩達。

総じて最近の流行歌をコピーした団体が多かったようである。そんな中でトロンボーンやサックスといった楽器による演奏が野外に心地よく響いていたのが印象的だった。

慌しい昼休みにもかかわらずステージに駆けつけた聴衆の存在はきっと演奏者の励みになったことだろう。各団体の堂々とした演奏に聴衆は拍手で応えていた。

素朴な疑問 西が8 ～西〇号館のナゾ～

中央教室の西側に広がる建物群。西1～13号館まであるってご存知でしたか？ それなのに現在「西〇号館」と名の付くものは全部で八棟しかありません。なぜなのか……。

では、おさらいしましょう。1号館は通称「語学棟」で、2号館は現在建設中の新教室棟です。3号館は新教室棟建設に伴い、旧2号館と共に取り壊され、その役目を終えました。4・5号館は皆さんご存知の通り。6号館は部室棟でしたが、二年前の富士見会館完成に合わせ「黎明会館」と改称され、事実上消滅。意外と知られていない7号館は保健室です。問題はここから。7号館の次が11号館になっているのです。ちなみに11号館は生涯学習センター。その隣にあるのが12号館、女子留学生寮です。番号の謎を調べたところ、建物を管理する都合上、当時の担当者が番号を離すよう配慮したためとか。つまり、8号館となるべき生涯学習センターが、11号館となってしまったのです。

さらに凄いのは、最後の13号館（写真）。12号館の隣にそびえ立つそれは、シャッターに閉ざされ、人の気配がありません。教室棟には見えないこの建物は、かつて民間会社から学習院が買い取ったものだそうです。

また新教室棟が完成すると、4号館と7号館はその機能が吸収されるため、取り壊されるとのこと。今まさに、学習院は西部開拓の時代なのです。（松）

春の叙勲 本学名誉教授に授与

四月二十九日付の春の叙勲で本学名誉教授が勲三等瑞宝章を授与された。経済学部経営学科名誉教授の久野英男氏である。

久野氏は一九二四年九月二二日生まれ。東京商科大学（現・一橋大学）商学部卒業後、博士号を取得。会計検査院事務官、国学院その後大学助教授などを経て、本学経済学部経営学科教授に就任。簿記と会計学を専攻し、主に財務会計と会計史などを研究している。

著書「わが国財務諸表制度生成史の研究」で昭和六三年度、日本会計研究学会賞（太田賞）と日本会計史学会賞を同時受賞。また、日本会計研究学会、日本会計史学会などの学外での活動にも従事し、めざましく活躍している。

居酒屋 海賊
営業時間 17：00～24：00
TEL 03－3954－4229
目白駅 みずほBK 三井住友BK 海賊

第三十二回輔仁会雑誌賞

応募要領

応募資格 学習院在籍中の全生徒・学生・教職員

募集作品 小説 文芸評論（未発表のものに限る）

応募規定 B5原稿用紙50枚以内 又は2万文字以内のデータをフロッピーにて受付

選考委員 川嶋優氏（前初等科長） 永井和子氏（女子大日本文学科教授） 篠沢秀夫氏（仏文学科教授）

応募方法 原稿枚数（又は文字数）、氏名（ペンネーム使用の際も必ず本名を明記）、所属先、住所⑦電話番号を明記し、直接持込または郵送。

賞金 入選七万円／準入選三万円／佳作一万円

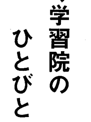
受付期間 十四年九月十六日

問合先 学習院大学内黎明会館318 輔仁会雑誌賞係 TEL（3986）0221 内線2649

明窓浄机

「友達」という言葉を聞くと、彼女のことを考えずにはいられない。私を変えてくれた、大切なひと。もう一年以上会っていないが、彼女が一番の友達であることは今も変わらない▼中学三年の夏だった。勉強が苦手で仕方なく入った学習塾で、出会った友達。彼女はとても優しくて、一緒にいると楽しかった。勉強が苦手でも、彼女がいると思えば塾通いも苦痛ではなかった▼しかし受験直前のある日、焦りから自暴自棄になっていた私は、自分よ[illegible]私なんていくらやっても受からない」。すると、「なんでそんなこと言うの？ だめだと思ったら、絶対に受からないよ！」と普段は温和な彼女が、本気で怒ったのだ。その姿に驚いた反面、弱音を吐いた自分が急に恥ずかしくなった▼その時は気まずかったものの、彼女は「一緒に頑張ろう」と言って、翌日から私の補習授業の全てに付き合ってくれた。彼女の励ましがあったから、諦めかけていた私は前向きになれたのだ▼二人とも合格した時は一緒に飛び上がって喜んだ。だが、今でも一つだけ心残りがある。一番言いたかった「今までありがとう」という言葉が、彼女に言えなかったのだ▼二番目に言いたいことなら言えるのに、本当に言いたいことはなかなか口に出せない。彼女には心から感謝していたのに、その言葉が照れ臭くて言えなかった。素直になれなかったが、いつか必ず伝えたい。私を変えてくれた、大好きな友達へ。（宏）

芳林堂書店 BOOKS HORINDO
池袋本店 03-3984-1101
コミックプラザ 03-3984-0018
高田馬場店 03-3208-0241
所沢店 042-925-5505
所沢駅ビル店 042-925-5355
大井町店 03-3474-4946
祐天寺店 03-3792-2561
津田沼店 047-478-3737
西川口店 048-254-1131
関内店 045-681-0065



4 ボート部快挙

本学ボート部は四月二十一日に行なわれた第三十九回三大戦対校競漕大会に出場。十一年ぶりの全部門優勝を果たした。

紙面紹介

2 特集・教育改革

3 働く学習院のひとびと

編集長後記

W杯、開催。

部室のテレビは映りが悪い。周りの部室は映りがよい。これは何かの陰謀なんだろうか……。

CANTINA

いろいろなシーンをお楽しみください。

ランチタイム AM11：30～PM2：00
¥980～
ティータイム PM2：00～PM5：00
ケーキセット¥600
ディナータイム PM5：00～PM10：00
シーザーサラダ¥650 ピザ¥1000～
ナイトタイム PM10：00～AM1：00
一人¥3000で飲み放題・歌い放題

【目白店】豊島区目白3-14-18
【Phone/Fax】03-5982-6088
※本紙を持参された方には10%割引いたします。
◆アルバイト募集中◆

移り変る季節料理
割烹
海乃家
全室お座敷で落ち着いたふんいき
大小コンパ承ります。
全室 個室宴会場 カラオケ無料
ご予算2,000円より（飲付）
高田馬場改札出口正面
☎本店 3209-7611（PM4～11）
支店 3208-9715

ふるさと居酒屋
村さ来 目白店
ご宴会コース
1，500円～3，000円
プラス
飲み放題
1，000円・1，500円
10名様以上のご宴会
焼酎ボトル一本プレゼント
15名様以上のご宴会
幹事様一名無料
20名様以上のご宴会
幹事様一名無料・焼酎ボトル一本プレゼント
インスタントカメラ一台プレゼント
豊島区目白3-5-13 フジヤビルB1F
TEL.03-3950-6939

さくらラウンジ
学生パーティー
の予約承ります
営業時間 9：30～21：30

カフェテリア杜
● ランチコーナー
● テイクアウトコーナー
● 麺コーナー（2階）
営業時間 11：00～19：00
電話番号 03-5992-1551（内線2573）

変わる学校教育

「総合的な学習の時間」の創設

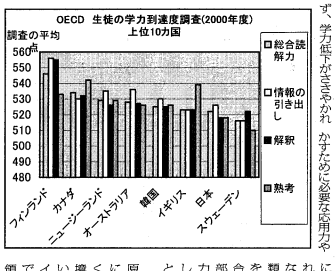
日本の教育はいま重大な転換期に立っている。学力の低下が問題視された従来の教育に変更が加えられ、「総合的な学習の時間」が創設されたのだ。この教育改革に着目し、現場の教師と本学教授にこの教育の利点と問題点を聞いてみた。

学力低下の実態

近年日本では、学力低下を懸念する声が耳にすることが明らかとなっている。その背景にあるのは、学習意欲の減退を学習内容の削減、学習時間の減少だ。しかし、OECD（経済開発協力機構）の学習到達度調査による日本の生徒の学力は、「国際的に見て上位に位置している。このような結果があるにも関わらず、学力低下がささやかれているのは何故だろうか。

この調査によれば、日本の生徒は記述問題や論理的に考える問題に弱い。これが明らかとなったことから、学習指導要領の改善が図られた。見て上位にいたのだ。

ここに、日本で従来行われてきた知識を一方的に教える、いわる詰め込み式学習の弊害が出てきていると結果がある。その影響が、知識を活かすために必要な応用力や表現力の不足を招いている。



生きる力を育む時間

「総合的な学習の時間」とは、今年度から本格的に実施された新学習指導要領に学習内容を入れ替えられてきた。しかし「総合的な学習の時間」は、この分類に収まらない。教科の枠を超えて学び、横断的・総合的に学習するのだ。文部科学省はこれを「生きる力」を育む時間として規定し、新学習指導要領の主旨としている。

この学習時間の内容は、原則として各学校、各教師に一任される。文科省はあくまで「例示」として「環境」「情報」「国際理解」といったテーマのみを掲げるにとどめている。今までは文科省が課した指導要領の枠内で、生徒に「授業」を受けるのみであったが、今後は学校が独自のカリキュラムを組むことが可能となる。

小学校での取り組み

目白小学校では、平成十二年度から「総合的な学習の時間」が週二時間、実施されている。その活動内容について、その研究推進委員会の委員長を務める南輝明教諭に伺った。

「総合的な学習の時間」のテーマや学年ごとに基づいて各学校が独自の計画を立てる。

「例えば、六年生に環境問題に対する意識を高めるために、ゴミ問題を取り上げ、ゴミ処理場を見学するのが一般的だったし、決定される。平成十三年度の六年生の学年テーマは環境問題。その一環として現在、新しい木材資源として注目される「ケナフ」という植物を学習材料に選んだ。ケナフを生徒に育てさせることで、観察や記録の仕方を学ばせる。

六年生に環境教育の一環として植物を栽培させる学校は多いが、ケナフを生徒に育てさせるのは目白小学校だけだ。

また授業において、児童一人一人が環境問題に対する意識を高めることにある。

「生徒達はケナフ植物を通して、分かったことや、感じたことを、作文や絵、詩などで表現する。その作品を集めて、ケナフ植物の成長の記録と共に、文集にまとめる。この文集は、ケナフを提供してくれた方々にも配布する予定です。」

南輝明（みなみてるあき）創価大学を卒業後、平成７年から豊島区立目白小学校に着任。現在は教務主任を担当。

中学校が抱える課題

では、中学校の教師は総合的な学習の時間にどのように取り組むのだろうか。そこで、共立女子中学校の金井圭太教諭に話を伺ってみた。

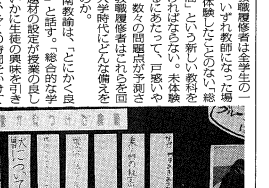
時間は、今年導入されたばかりだ。生徒それぞれが独自のレポートを作成することが基本的な形態となっている。学校の感外活動をするようになったという。生徒への影響は確かなようだ。

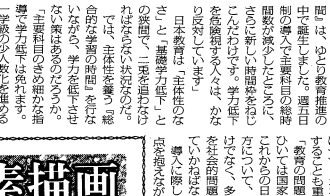
共立女子中学校の金井圭太教諭に話を伺ってみた。

「総合的な学習の時間」という新しい教科を生徒に指導しなければならない。大体験の授業を遂行するにあたって、日々いや行き詰まりなど、数々の問題点が浮き彫りとなってくる。その問題点を解決するために、教師間で話し合いをしておくべきなのか。

目白小学校の教諭は、どこにかく良く遊ぶことです」と語る。総合的な学習の時間は、職務の設定が授業の良し悪しを分ける。いかに生徒の興味を引き出すかだけでなく、多くの時間をかけて取り組むための価値があるテーマ設定をすることが求められるのだ。そのために、日々の教材研究が大事になってくる。共立女子中学校の金井教諭も、色々な方面に興味を持ち、教養を高めてほしい」と語る。大きな時代には、盤石以外にも様々な経験をしておかなければならないのだ。

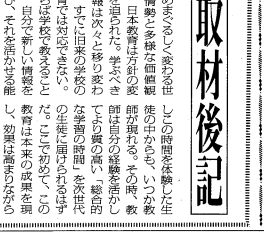
「一方高橋教授は、まず一学校が終わりであることに、本理解しなければならないと指摘する。各自たちが受けてきた教育を踏襲してきただけでは、現在の学校教育が求められるのが、生徒に何を伝えたいかという信念のもとに、生徒をうまく引き出すことが重要だ。また、学外のくに協力を仰げる会社や、生徒をうまく引き出すことが求められる。


調べたいテーマを短冊にして発表（目白小学校）


金井圭太郎（かないけいたろう）平成八年本学卒業。同大学院修了後、平成十三年から共立女子中学校勤務。

今、何をすべきか
―教職を志す人へ―

現在、本学の教職履修者は全学生の一割程度にあたる。いずれ教職の道に志す人々。彼らは自分が体験したことのない総合的な学習の時間」という新しい教科を教えるにあたり、どのような心構えが必要なのか。


「学生も考えるべき問題」と諭す教授

取材後記

昨今めまぐるしく変わる世界情勢と多様な価値観。先の中からも、いつか教師になりたいという人の多さに、日本教育は方針の変更を迫られた。学ぶべき事は学習の時間」を次世代の生徒に届けられるずならば学校で教えることと、自分で考い情報は次々と移り変わり、すでに旧来の学校教育では対応できない。

だ。ここで初めて、この教育は本来の成果を現し、効果は発揮されながら受け継がれていくことだろう。

「つまり、この改革の良さは、その根本となる理念にあるのかもしれない。

だが、この改革の成果の教育にかかっている。数十年後の未来を見据えた教育は本来の成果を現し、効果は発揮されながら受け継がれていくことだろう。

「つまり、この改革の良さは、その根本となる理念にあるのかもしれない。

だが、この改革の成果の教育にかかっている。数十年後の未来を見据えた教育は本来の成果を現し、効果は発揮されながら受け継がれていくことだろう。

取材班は、梅田智子、高橋昇平、道口雨也、鳥越洋之、中村悠、向井碧、森あらた（五十音順）の六名で構成した。

素描画

GAKUSHUIN

経済学部経済学科４年

笈沼清紀さん

人生を切り拓く行動力

学生団体「ｍｅｒｉ、ｓ（しゃかーず）」を立ち上げ、積極的な活動を繰り広げてきた笈沼清紀さん（おいみず・清司）。そんな笈沼さんが、大学に入る迄ははっきり言って「遊び」ばかりしてきた。その頃の笈沼さんが、大学に入る迄ははっきり言って「遊び」ばかりしてきた。その頃の笈沼さんが、大学に入る迄ははっきり言って「遊び」ばかりしてきた。

「きっかけは、一年の夏休みに参加したインターンシップ。それが起業家への道に繋がったのだ。当然の出来事に遭遇したことがきっかけだ。視野を広げるチャンスに遭いたい！と思い立ったのだ。時代はちょうど、第三次ベンチャーブーム。笈沼さんも、起業家になることを決意した。

「さっそく、秋から入材派遣のベンチャー企業でインターンをしました。三ヶ月だけだったが、それまでの学生生活を客観的に見つめ直すことができた。またこれを機に、自分が今何をすべきかが見えてきたという。そして、インターン後、学生数人と「ｍｅｒｉ、ｓ」という学生団体を設立した。活動内容は、様々な社会人を交えた勉強会を通じて、論理的に事を考え説明する力を養うことの重要性を実感しました。その経験は、ゼミ活動、就職活動で大いに活かされた。

来春からは、シンタンクというコンサルタントという、経験を積める企業を選んだ。インターンを通じて、論理的に事を考え説明することの重要性を実感しました。その経験は、ゼミ活動、就職活動で大いに活かされた。

来春からは、シンタンクというコンサルタントという、経験を積める企業を選んだ。インターンを通じて、論理的に事を考え説明することの重要性を実感しました。その経験は、ゼミ活動、就職活動で大いに活かされた。

来春からは、シンタンクというコンサルタントという、経験を積める企業を選んだ。インターンを通じて、論理的に事を考え説明することの重要性を実感しました。その経験は、ゼミ活動、就職活動で大いに活かされた。

シンポジウムで話す笈沼さん（写真右）

（財野紗恵）

記者の眼

安楽死の議論に向けて

今年、神奈川県の病院において意識不明で植物状態になった患者に対し、主治医が家族の目の前で気管内チューブを抜き、筋弛緩剤を投与して死に至させていた事件が発覚した。安楽死問題として話題となったこの事件により、私たちは安楽死について考える必要を余儀なくされた。

安楽死には積極的安楽死と、本人の意思に基づいて医師が直接的に死に至る処置を施す、積極的安楽死の二つがある。日本では、しばしば後者への是非が論じられてきた。人から依頼を受けてその人を殺したら刑に処する規定があるため、その違法性について議論が尽くされてきた。

現在では、積極的安楽死を医療に取り入れるのは時期尚早とする声が一般的だ。

一方オランダでは、去年の四月に「安楽死法」が成立し、完全に合法的な積極的安楽死が実施されるようになった。この合法化は、住民側から自発的に権利を獲得するための運動がなされ、幾度となく議論が交わされたことが要因となる。それに対し日本では安楽死事件を扱う殺人事件として報道がなされ、安楽死事件を扱う報道がなされ、安楽死事件はあるが、いったい何が重要な問題点なのかという議論が行われていないのだ。

昨今の安楽死事件は、いずれも患者の意思が存在していないため、本人の意思に基づいた安楽死の是非を問う以前の問題があり、許されない犯罪と言える。一方、意思の存在する安楽死の是非は自己の終末を自己決定するための選択肢という点で、新しい権利の形として取られてきた。

とはいえ、後者の安楽死についても、未だ議論の余地が残されている。どのような場面があるのか。二つに、患者本人の意思をどれほど尊重するのか。三つに、患者の家族の負担を減らすために安楽死が許されるのかという倫理的な問題。三つ目に、患者本人の意思の確認についてだ。安楽死法では、患者本人の意思の確認について、医師二人以上の判断が必要とされている。しかし日本の安楽死事件では、患者本人の意思の確認が曖昧なまま、家族の判断のみで安楽死が行われてきた。患者本人の意思の確認が曖昧なまま、家族の判断のみで安楽死が行われてきた。患者本人の意思の確認が曖昧なまま、家族の判断のみで安楽死が行われてきた。

これら三つの問題点を踏まえ、安楽死を容認できるだろうか。

これらの問題点について、今後、国民は積極的に議論を行う必要がある。安楽死の問題を、一人一人が切実なものとして考えるべきだ。

（政治学科三年　向井碧）

新しい学力像がもたらすもの

二〇〇一年に施行された学習指導要領についていて、いまだ本格的な議論が交わされていない。中でも重要なのが、「何をもって学力とするのか」という学力観の変化だ。

従来、「日本で学力と言えば、知識量・処理能力など、いわる受験勉強の能力のことを指していた。今回の教育改革において、表現力・意欲などもふくめ、学力というものを多面的に評価することになる。この新しい学力像のポイントは、評価の基準が各生徒の個性を尊重する形に変わったということだ。

しかし旧来の学力像が生徒の個性を全く認めていなかったというと、そんなことはない。考えてみると、これまで行われてきた試験の成績などの評価も、そこに「学力」とするかという学力観の表れだ。

ただ問題は、この判断システム自体が、基準の対象に含まれない生徒は、教科以外の能力を伸ばす機会を奪われることとなり、落ちこぼれの問題を助長されてきた。

これに対し、新しい学力像では、今までとして安楽死を容認できるだろうか。

これらの問題点について、今後、国民は積極的に議論を行う必要がある。安楽死の問題を、一人一人が切実なものとして考えるべきだ。

（政治学科三年　向井碧）

今後の展望

「総合的な学習の時間」導入の理由は二つあると話すのは、本学教職課程の職員室で（しょう）ず）教授である。

「一つは、子供たちの自然とふれあえる機会が減ったこと。これらの問題点を踏まえ、生徒の個性が引き受け入れやすくなったという点。

また、「学力低下」を懸念する声が多い中、「学校の少人数化を進める方針」を打ち出した。

「主要科目のきめ細かな指導で学力低下は免れます。

さらに、教育を学校任せにするのではなく、地域や家庭が協力し、目の意識を非常に高い。学校が生徒の「生きる力」を養えるように授業を運営し、さらに地域、家庭と協力するなど、環境を整えていく必要があるだろう。

取材班は、梅田智子、高橋昇平、道口雨也、鳥越洋之、中村悠、向井碧、森あらた（五十音順）の六名で構成した。

情報特急便

学部・学科

法学会講演会

「（題名未定）」

日時・六月十八日（火）
午後（時十分～四時三十分

場所・百周年記念会館三階小講堂

講演者・橋爪大三郎（東京工業大学教授）

第二十六回地中海学会大会

日時・六月二十二日（土）　午後一時～八時
二十三日（日）　午前一時～四時三十分

場所・百五号館（二）教室

問い合わせ・地中海学会（03-3985-2288）

お詫び

前号、一七ページの本欄におきまして、就職部主催のガイダンスセミナーの記事に誤りがありました。関係者の皆様に深くお詫びいたします。

情報コーナー

東洋文化研究所
設立五十周年記念事業

「韓国における『独裁』の記憶と映画表現の現在」

日時・六月十五日（土）　午後一時～五時三十分

場所・百周年記念会館一階七番

内容・映画『ペパーミント・キャンディー』上映後、パネルディスカッション

第三七回史料館講座

「西田幾多郎と学習院」

日時・六月十七日（月）　午後六時三十分～

場所・百周年記念会館三階小講堂

講師・西井芳（文学部教授、史料館研究員）

経済学会講演会

「日本の会社と資金調達方法―学問と実際の比較―」

日時・六月十八日（火）　午後二時三十分～四時

場所・南二号館（二）教室

講演者・林康行（北海製紙常務）

学習院の舞台裏
～大学を支える人々～

学習院内で働く職員。毎日お世話になっていても、彼らのことはあまり知らないのでは？　どのような仕事をしているのか、働く人たちから見た学生とはどのように映っているのか。話を聞きながら追ってみた。

学習院の守護神　守衛

大学に入る際、学生は必ず門を通る。これらの前に立ち、学習院の安全を日夜守り続けているのが守衛さんだ。主な仕事は二つ。門の前で来校者の管理をすること、そして構内で起こったトラブルに対応することだ。実際、学習院には日々様々な人が訪れる。顔馴染みのOB・OGも多く、f－Campusの影響か他大学の学生もやって来る。だが、招かれざる客が来ないわけではない。守衛さんはそれに毅然とした態度で臨み、学習院の平和を守っている。

では、彼らの視点から見た学生は、どのように映っているのだろうか。日常の中で接することも多い分、学生に対する思い入れも深いはずだ。

今日も門の前で安全確保

「一昔前の学生は、ゴミ箱は蹴っ飛ばすし、管理しているカギもちゃんと返さない、金属バットで備品を叩いていることさえありましたからね。良く言えばヤンチャな学生が多くて、怒鳴って止めるのは毎度のこと。ですが、今の学生にそれはあまり見られません。とにかく、おとなしくなった。お互いに衝突することはなくなりましたが、少しの寂しさを感じているのも事実です」

守衛さんの目はしっかりと学生をとらえている。良い点がたくさん見えてくるのだ。構内で事故があったりすると、真っ先に学生が守衛所まで連絡しに来る。落し物を拾っても、しっかり届けてくれる学生は多い。目白駅前で倒れた自転車を直す学生を見たこともあるという。「あれは偉い」と、守衛さんも感心していた。だが一方で、困っている点も多くある。特に目立つのが、早朝に良く見られる、西門を乗り越える学生の姿だ。他にも自転車の放置が挙がった。実際に駅前の違法駐輪で移動される自転車の大半は、学習院大生のものなのだ。

何も特別なことばかりが目に付いているわけではない。何気ない生活の中にも、守衛さんが学生に対して気づくことはある。

「門の前を行き交う人々を見ていても、学習院生かどうかは一目で分かりますね。慣れもあるとは思いますが、別の学校の学生とはやはりどこか違う。学習院には学習院のスタイルがあるのだと思います」

守衛さんにとっては、学生とのあいさつも欠かせない。幼稚園から中・高等科、大学まで多くの人々が通る門の前で、登下校時にあいさつをする。元気なあいさつをする幼稚園児に比べて、中・高等科の生徒からは返答もあまりない。大学生はどうかというと、反応は悪いものの、守衛さんのあいさつにとりあえず返事はしているようだ。今は全体の一割が挨拶を返してくれることを目標に、守衛さんはあいさつを毎日の日課としている。

最後に、学生に対するコメントを頂いた。「気持ち明るく、心さわやか、明るい笑顔。この三つを忘れずにいて欲しいですね」。元気な姿を見るのが、何よりも嬉しい。いつも温かく見守ってくれる守衛さん。次に門を通る時には、元気にあいさつをしてみてはどうだろうか。

学生の食をあずかる　食堂

二限の授業が終わると、待ちにまったランチタイムがやってくる。友達と学外のお店に繰り出すのもよし、持参のお弁当をベンチで広げるのもよし。十人十色の過ごし方がある中、食堂を利用している人も多くいるのではないだろうか。学生の出入りが多い一階の食堂「カフェテリア杜」。ここで働く人々と学生との間にどんなふれあいがあるか聞いてみた。

食堂で働く人たちは十一時の開店に向けて朝早くから準備を始める。十二時頃から徐々に客が多くなり十二時半のピークには、食堂の人全員が対応に追われ、大忙し。だが食堂が大盛況なだけに、困った事も多いという。食器を外に持ち出し、どこかに放置したままだったり、カップ麺の残りを手洗い用の流しに流してつまらせたりするようなマナーの悪い学生に苦労させられているようだ。こういった行動は絶対にやめよう。他にも雨の日、大勢の人が水の滴ったままの傘を持ち込むため、床が水浸しになり滑りやすい。食堂側の対応策として、傘袋が多めに出されているのでぜひ利用したい。

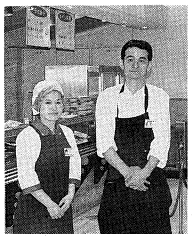
一方、食堂のおばちゃんに挨拶したり「ありがとうございます」などと感謝の気持ちを伝える爽やかな学生も多い。中には自分の就職活動を報告してくる顔馴染みの学生までいるという。食堂のおばちゃんたちは学生とのふれあいが多いため、単なるお客として見るのではなく、「母親」的な視点で私たち学生と接してくれている。

ところで、学食のメニューは多くの学生の声が反映されているのをご存じだろうか。学生食堂用に作られたメニューを、若者が好みそうな肉料理中心にアレンジし直しているのだ。

学生の意見が取り入れられた例を店長はこう語った。「テイクアウトコーナーのソフトクリームの味を増やしてほしい、という学生さんの要望があったため、当初のメニューよりも味の種類を増やしました。季節限定モノもさくら味に続いて色々と売り出していきます。現在販売中のクレープも昼食と夕食の間に軽食が食べたい、との声から、試行錯誤を重ねた末に誕生したものなのです。何か食べたいモノや、その他食堂に対して意見があれば聞きたいですね」

また食堂側の要望として「昼の混雑時、レジで順番が回ってくるまでに財布を出しておいて下さい」と店長は言葉を続けた。レジ前の混雑を避けるためにも協力しよう。

食堂の人たちは学生からの要望を待っている。私たち学生が思っている以上にその声は反映されやすいのだ。何かある人は遠慮せず言ってみてはどうだろうか。


この笑顔が食堂を支える

雑務は任せろ！　用務員

用務員さん。そう聞いてピンとこない人は多いことだろう。青い作業着を身にまとい、学内の至るところでごみ箱と格闘している彼らは、清掃員さんと混同されがち。だが、その実態は似て非なるものなのである。

学内清掃は三つの組織によって分担されている。各施設や教室の内部については、外部より派遣された二社の清掃会社が手分けして清掃する。用務員さんにはそれ以外、つまり学内全般の美化が課せられているのだ。さらに彼らの仕事は掃除のみに留まらず、実に多岐にわたっている。

彼らの一日は午前八時、すべての教室を開錠することから始まる。そして午前と午後の二回、全部で五十七台ものごみ箱からごみを収集する。さらに彼らは業務が終了する午後四時まで学内を奔走し、さまざまな雑務をこなしていく。芝生の手入れ、ベンチの補修、ドアのちょうつがいへの油さしなど、とにかく枚挙にいとまがない。まさに大車輪の働きぶりだ。

こうして日々、激務に追われている用務員さん。彼らはわれわれ学生に対してどんな思いを抱いているのだろうか。話を聞いた工藤正主任は言う。

「作業しているときに『ご苦労さま』と言われれば、悪い気はしないよ。幼稚園児のほうが礼儀正しいけれどね（笑）」

温かな言葉に、心が安らぐ瞬間。そんな学生との触れ合いを励みにしているのだろう。ふと、そこに気恥ずかしそうな笑顔がのぞいた。

ただ、学生のマナーの悪さには閉口することもしばしば。ごみの分別ができていない。まして、ごみをきちんとごみ箱に捨てようとすらしないのだ。

「たばこのポイ捨てが一番目立つ。去年あたりからひどくなってきた。看板を立てて注意しているのだけれど、だめだね」

それどころか、食べ残しを広場のテーブルに置きっ放しにする学生もいるという。こうした現状に工藤主任は頭を悩ませている。

「学内が汚れるのはもちろん、ごみに群がるカラスがすみついて、人間に危害を加えることもある。ごみが出るのはしょうがないことだけれど、きちんと捨ててほしい」

無責任な行動は、用務員さんの負担をいたずらに大きくするだけだ。快適なキャンパスライフは、彼らの人知れぬ努力があってこそのもの。われわれにも、その努力に応えるような心遣いが求められるところだ。

とはいえ、なにも深く考える必要はない。ごみをごみ箱に捨てる、そんなささやかなことでいいのだ。

いつも笑顔で仕事に励む

まだまだ知らない職員さん

大学内には様々な施設が存在しますが、中には意外と馴染みのないものもあるのではないでしょうか。学内にはまだまだあなたの知らない職員さんがたくさんいます。

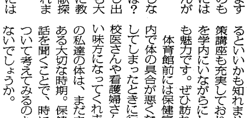
例えば、図書館。利用する人としない人の差が一番激しい施設なのでは？「本の探し方がわからない」「貸し出しの仕方を知りたい」という人でも大丈夫です。受付の司書さんが丁寧に教えてくれます。レポートなどで文献探しに困ったときも相談に乗ってくれますよ。

何か新しいことに挑戦したい人には西11号館の生涯学習センターがおすすめ。様々な分野の専門インストラクターが、あなたの自分磨きをお手伝いします。初心者でも一からきちんと指導してもらえるので安心です。利用者のニーズにも積極的に応えてくれるので、要望があれば職員さんに言ってみるといいかも知れません。資格取得対策講座も充実しており、本格的な講座を学内にいながらにして受講できるのも魅力です。ぜひ訪れてみては。

体育館前には保健室があります。学内で体の具合が悪くなったり、ケガをしてしまったときに行きましょう。学校医さんや看護婦さんが、あなたの強い味方になってくれます。二十歳前後の私達の体は、まだまだ発達の途上にある大切な時期。保健室スタッフのお話を聞くことで、時には自分の身体について考えてみるのも大切なことではないでしょうか。

また、身体の悩みだけではなく、心の悩みを抱えている人も多いのでは。そんなときには北1号館二階の学生相談室に行ってみましょう。相談員さんがあらゆる相談に応じてくれます。問題を一人で抱え込まず、専門のスタッフに聞いてもらうことで、心の痛みがグッと軽くなります。

このように、学内には縁の下の持ちのような職員さんもたくさんいます。あまり行かない場所だからと敬遠せずに、色々な施設の職員さんと交流してみては。自分の世界が広がるかもしれませんよ。（絵）


司書さんが待ってます

教授の横顔
研究の合間に趣味を満喫
文学部心理学科　外山みどり教授

インタビューの途中で鳴り響いた受話器。大阪の不動産会社からの電話でしたが、その人には大阪大学に勤めていた頃から、たびたび物件を勧められているとのことです。面白い人だったので、最初にかかってきた時についつい話し込んでしまい、今でも電話がかかってくることに。今回はそんなユニークなエピソードをお持ちの、心理学科の外山みどり教授です。趣味と教授になった経緯についてお話を伺いました。

オペラは面白い

小学生の頃ピアノを習っていたので、クラシック音楽を聞くのが好きですね。オペラを見るのも好きです。六、七年前に、ニューヨーク大学に客員教授として十ヶ月行った時には、研究の合間をぬって十回以上は行きましたね。ミュージカルも見ましたが、オペラの雰囲気の方が良かったです。

ニューヨークで過ごしているときに思ったのですが、周囲の人の会話がわからないと、疎外感を味わいます。一対一の会話ならともかく、さすがに道行く人々の日常会話は速すぎて分からない。だけどオペラ劇場は、落ち着いた雰囲気なので、周りのお客さんが皆ゆっくりと会話しています。するとその会話が聞き取れるので、安心できました。そのせいで、オペラがより好印象だったのかもしれません。

もう一つの趣味

日記を付けているのですが、最低気温と最高気温を常に書いています。日記帳を買った時に気温の欄があって、そこを空白にしたくなかったから始めたのですが、はまってしまって。もう二十年になります。新聞の気象予報欄は毎日必ずチェックですね。真夏日がどれくらいあったのか数えたりもしています。実は、老後に気象予報士になるための勉強だったりする……訳ないですよ（笑）。

教授になったのは

音楽に興味があったから、高校のときは芸術論を勉強したいと思っていました。でもそれは、哲学的な関心ではなく、「例えば「どういうのを美しいと思うのか」ということを解明したいという興味でした。だからその後になって心理学も実証的で面白そうだと思い、こちらの道に進みました。教授になろうと思った理由は色々ありますが、一つは普通の会社に勤めるのは向いていないと思ったからですかね。

でも、教授になって良かったと思います。好きなことを追求し、それを学生に伝えていくのでやりがいがありますし。生徒に教えるのは楽しいですが、良い雰囲気で授業を進めるためには、ある工夫が必要なんです。それは、初めの二、三回の講義で面白いと思わせること。その点では、学習院の生徒は協力的なので助かっています。（聞き手・構成　春日貴恵）

プロフィル

東京都出身。一九七三年東京都立大学を卒業。昨年大阪大学から本学の教授に着任。専攻は社会心理学。

読書
自然がくれる強い力
虹

日に焼けた黒い肌をあらわにした、南国の女性たち。ぼんやりとした輪郭と、力強い色彩が目を引きつける。そんな幻想的な表紙に魅かれ、すでに手にとった人もいるのではないだろうか。吉本ばななの新作は、タヒチを舞台にした書き下ろし小説である。

主人公は東京の喧噪の中に生きる女性。母の死をきっかけに、それまでうまくいっていた日常の歯車が少しずつ噛み合わなくなってゆく。仕事や恋愛をはじめとする人間関係の複雑さから逃れて、彼女は長年行きたいと思っていたタヒチを訪れる。そこには、都会では感じることのできない巨大で繊細な自然の力が満ちあふれていた。彼女は思う。タヒチのような自然が身近にないから都会の人々は生きることに疲れているのだ、と。この自然を目に焼きつけて、東京へ戻ったら、ただありのままに生きてみようと心に決めるのである。

作者自身、タヒチへ旅行し書き上げただけあり、自然の表現はことに細かい。また、文章だけでなく、四十点ちかくもの写真と挿画が、視覚的にもその勢いを訴える。タヒチの景色そのままの輝きや、南国らしい原色の鮮やかさがページを繰るごとに現れる。その空と海のあまりの青さ、あるいは木々の緑、光の白さに読者は圧倒されるだろう。文字でも十分に書きつづられている自然の様子を、さらに絵と写真で補うことで、タヒチの自然の奥深さが読者の間近に再現されているのだ。

無気力、無関心、無感動――そんな現代の病を自分の心に感じる人。私が医師ならきっとこの本を処方する。自然の息吹をいっぱいに取り込めるはずだ。読み終われば、煩わしいことに悩む日々を忘れて、自然体で生きる大切さに気付くだろう。（梅）

（吉本ばなな著　幻冬舎　税別千四百円　二〇〇二年刊）

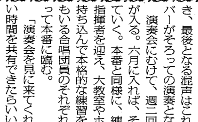
Pick up!

音楽部による演奏会が六月下旬に行われる。音楽部は合唱団と管弦楽団の大きく二つに分かれ活動。第二十七回となる本演奏会は合唱団の発表となる。演奏会では、「女子大女声合唱団」「大学女声合唱団」「大学男声合唱団」「混声合唱団」の四つの団に分かれ発表していく。女子大女声、大学女声、大学男声の演奏と続き、最後となる混声はこれら三つのメンバーがそろっての演奏となる。

演奏会にむけて、週二回の練習にも力が入る。六月に入れば、その回数も増えていく。本番と同様に、練習にもプロの指揮者を迎え、大教室やホールに機材を持ち込んで本格的な練習を行う。七十人もいる合唱団員のそれぞれが、一丸となって本番に臨む。

「演奏会を見に来てくれた人と、楽しい時間を共有できたらいい」と、混声責任者の島崎泰貴さん（独三）は語ってくれた。合唱団と管弦楽団が同部にあるのは珍しい。それが、音楽部の強みであるといえよう。オーケストラと合唱の融合。時には、音楽に酔いしれてみるのもいいだろう。（因）

音楽部「学習院輔仁会音楽部合唱団　第二十七回定期演奏会」
日時：六月二十六日（水）
場所：学習院創立百周年記念会館正堂
料金：七百円



CAMPUS GUIDE

●陶芸研究会「紫陽展」
日時：六月十七日（月）～二十一日（金）
場所：輔仁会館三階
料金：無料
内容：熟練から初々しさが同居する展示会に、ぜひいらしてください。

●国劇部「国劇部公演」
日時：六月十五日（土）
場所：豊島公会堂
料金：千円
内容：歌舞伎公演。「絵本太功記」十段目。

●演劇部
「私と奏でる未完成交響曲 ～technopolis tokio～」
日時：六月二十七日（木）～三十日（日）
場所：演劇部アトリエ
料金：八百円
内容：自作脚本での公演です。

●写真部「六月展」
日時：六月二十日（木）～二十二日（土）
場所：輔仁会館四階

●絲竹会「ミニコンサート」
日時：六月二十九日（土）
場所：富士見会館学生ホール
料金：無料

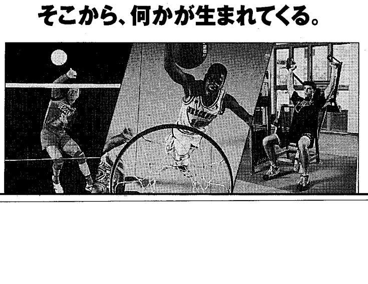
社告

新聞づくりは文章上達の近道。膨大な情報のなかから不要なものをいかに落とし、必要なものをいかにまとめていくかがポイント。企画を練り、取材を行い、記事を書き、見出しをひねり出すことで、自然と情報を編集する力がついてくる。その力は講義でも演習でも役に立つこと請け合い。興味がある方はぜひ黎明会館316号室へ。

社員、募集。
（実は密かに「急募！」だったり）

学習院大学新聞社
黎明会館316号室　3986-0221（内線2607）

TRY
そこから、何かが生まれてくる。



はじめることから、すべてははじまる。
目標をかかげ、自信を持って、
諦めることなく、
自分に素直に、目標に向かうこと。
そして目標に到達できたと確信できたとき、
結果は自ずとついてくる。
トライする人が好きです。トライする人とともに、
私たちもトライしています。デサント。

DESCENTE
株式会社デサント　デサントスポーツ営業本部
TEL.大阪06(774)0566 東京03(3817)0631
お客様相談室　大阪TEL.06-774-0369　東京TEL.03-3817-0622

三大戦を完全制覇

ボート部快挙達成

第三十九回二大戦対校競漕大会（吾田ボートコース・2000メートル）が、四月二十一日に行われた。参加したのは、本学、成蹊大、成城大の三大学。本学ボート部は、シングルスカル、ダブルスカルの二種目で、2位以下に大差をつけて優勝を決める。接戦が予想されたフォアでも、一艇身差で逃げ切り優勝を果たした。これは実に、十一年ぶりの快挙であった。

ボート競技の目的、それは誰よりも速くボートをゴールまでいていくこと。単純だが、それだけにこの目的を達成するのは簡単なことではない。

追風という悪条件の中で始まったこの大会、最初に登場したのは、一人でこぐシングルスカルに出場するボート競技で、2位の成績を残した経験大に20秒差をつけて優勝を決めた。

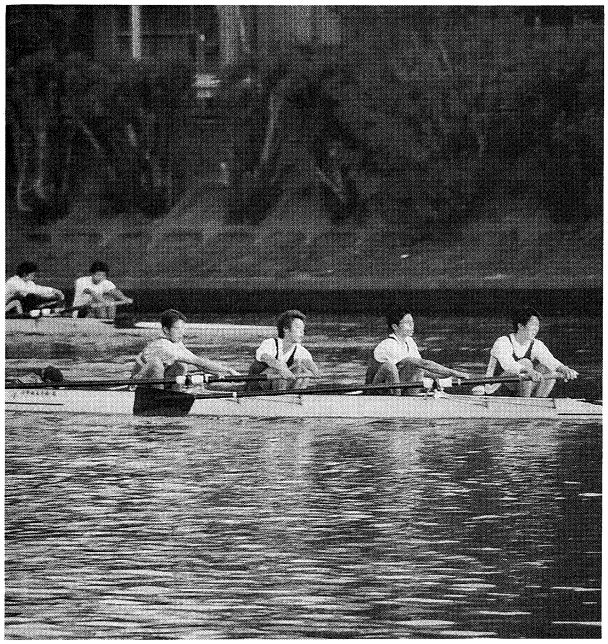
二人でこぐダブルスカルには、五十嵐八選手（法四）と和久井真樹選手（教二）が出場した。スタートから一気に漕ぎ寄せると、2位以下を全く寄せつけず、ぶっちぎりの快走。10秒近い差をつけて優勝した。

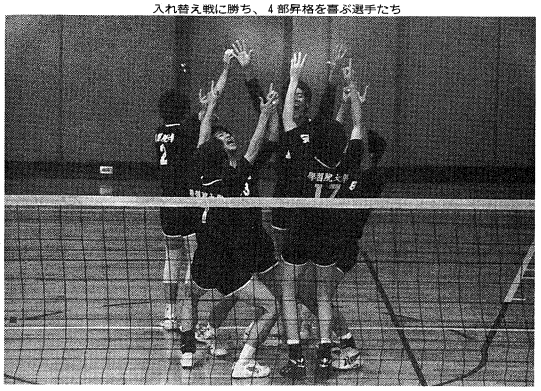
新堀隊人選手（教三）は、「練習してきたことを出し切ることができた。一人でこぎきらなくてはならないこの種目は、新堀選手のねばり強さが勝利を呼んだ。

「自分との戦いだった」というレース序盤は抑え気味に展開したため後半は力の差を見せ付ける結果となった。

並ばれる場面もあったが、一気に離れ3艇身の差をつけて、8分27秒でゴール。10秒以下を全く寄せつけず、シングルスカルに出場するボート競技で、2位の成績を残した経験大に20秒差をつけて優勝を決めた。

二人でこぐダブルスカルには、五十嵐八選手（法四）と和久井真樹選手（教二）が出場した。スタートから一気に漕ぎ寄せると、2位以下を全く寄せつけず、ぶっちぎりの快走。10秒近い差をつけて優勝した。





入れ替え戦に勝ち、４部昇格を喜ぶ選手たち

27年ぶりの４部昇格

バレーボール部男子

バレー部男子がやってくれた。二十七年ぶりの4部復帰。チーム一丸となってこの快挙をつかみとった。

本学は春季5部リーグ2位となり、五月二十五日に亜細亜大において、4部校へ挑んだ。相手は4部7位の茨城大。大舞の選手が揃っているチーム。

第1セット序盤からシーソーゲームの様相を呈す。しかし、9―7の場面、レフトの内田知宣選手（政四）とセンターの笛吹ライムを連取し、勢いに乗る。相手も食らいついてくるが何とか振り切り、25―21の接戦でこのセットを奪う。

その後も、入れ替え戦だからこその一歩も引かない試合を展開。第2セットは本学の連携ミスが目立ち、25―22で落とすが、第3セットは本学が巻き返し25―23で競り勝つ。セットカウント2―1。次の第4セットを取れば昇格が決まる。

開始直後、相手にサーブを決められ先制を許すが、本学は焦っていない。着実にレシーブをセッターに返して、攻撃につなげ、得点を重ねる。1点決めるごとせまる自指してきた瞬間。相手本学のミスが目立ち、完全に本学のペースになった。そして迎えたマッチポイント。レフトから平田部選手を頼る確かな今回の試合。本学はレシーブが安定していたが、ミスから攻撃につながらない場面も見受けられた。この点をこれからの練習で強化すればもっと強くなれる。秋季4部リーグに向け本学の新たな挑戦が始まった。

また、女子も同会場で3部昇格をかけ中央大と戦った。ほぼ互角の戦いをみせるも結果はセットカウント2―3。惜敗だった。この敗戦をばね秋季リーグでの巻き返しに期待したい。

（南波さやか）

厚川選手は精力的な動きで決定機に絡んだ

惜しくも準優勝

ホッケー部男子

西日を背に引き揚げていく選手たちの姿が、物悲しく感じられた。

本学は春季5部リーグ2位となり、五月二十五日に亜細亜大において、4部校へ挑んだ。相手は4部7位の茨城大。大舞の選手が揃っているチーム。

第1セット序盤からシーソーゲームの様相を呈す。しかし、9―7の場面、レフトの内田知宣選手（政四）とセンターの笛吹ライムを連取し、勢いに乗る。相手も食らいついてくるが何とか振り切り、25―21の接戦でこのセットを奪う。

その後も、入れ替え戦だからこその一歩も引かない試合を展開。第2セットは本学の連携ミスが目立ち、25―22で落とすが、第3セットは本学が巻き返し25―23で競り勝つ。セットカウント2―1。次の第4セットを取れば昇格が決まる。

開始直後、相手にサーブを決められ先制を許すが、本学は焦っていない。着実にレシーブをセッターに返して、攻撃につなげ、得点を重ねる。1点決めるごとせまる自指してきた瞬間。相手本学のミスが目立ち、完全に本学のペースになった。そして迎えたマッチポイント。レフトから平田部選手（法二）がこん身の力を込めて、スパイクを打ち込む。決まれ―。そう願ったボール部男子が相手コートに突き刺さった。コート上の5人が駆けよる歓声をよそに、審判がホイッスルを吹く。

1点決めるごとせまる自指してきた瞬間。相手本学のミスが目立ち、完全に本学のペースになった。そして迎えたマッチポイント。レフトから平田部選手（法二）がこん身の力を込めて、スパイクを打ち込む。決まれ―。そう願ったボール部男子が相手コートに突き刺さった。コート上の5人が駆けよる歓声をよそに、審判がホイッスルを吹く。物悲しく感じられた。

目指すは一部昇格のみ。万全の体制で戦いに臨んだ。

ところが、スポーツ推薦の選手を中心に据え、2部に昇格して来た山梨学院大に、初戦で1―5と大敗。他のチームが山梨学院大を下す可能性も低く、本学の優勝は絶望視された。

それでも、と三橋雄亮主将（政四・たかよし）は言う。「目標を切り捨てず、残りの試合を勝つつもりで全員でやってきた」

あきらめて下さない。ただ全力で自分たちのホッケーをやる。そんな気概が彼らの姿勢から感じられた。

六月一日、阿須運動公園ホッケー場、迎えた東大との1リーグ最終戦。本学はラインを押し上げ、高い位置で試合を組み立てる。どん欲に勝利を求める選手たちの姿がそこにはあった。

前半、セットプレーから、MF・三橋主将が決める。さらに後半、前線に休みなく供給されるパスを、FW・厚川佳選手（法三）と三橋主将が絶妙なコンビネーションで崩し込む。3―0、圧勝。だが、そこに笑顔はなかった。

とあれば理由は大きい。スペースへのパスと飛び出しが絶妙のタイミングでなされ、決定機へ結びつく場面が頻発となる局もあった。

ホッケーの試合は、ボールをとにかく拾って、早い攻撃につなげるパターンができた。そんなバレーができたと、試合後、一部リーグに向け本学の新たな挑戦が始まった。

また、女子も同会場で3部昇格をかけ中央大と戦った。ほぼ互角の戦いをみせるも結果はセットカウント2―3。惜敗だった。この敗戦をばね秋季リーグでの巻き返しに期待したい。

（南波さやか）

相手をかわし突進する熊谷主将（右）

三連覇ならず

アメフト部

同点に追いつかれた第3クオーター。熊谷英樹主将（政四）のプレーで、またも流れを完全に引き寄せられたのだ―。

五月二十六日、本学ジラウンドで行われた四大蔵大との決勝戦に臨んだ。

前半は持ち前の組織プレーを発揮できずに、7―0で折り返す。ところが、後半に入ると、前半安全にいた中央のラインが崩れ始め、そこを神に込まれ同点に。

勝負はここからだった。相手のキックオフ。チームを引っ張る熊谷主将が絶妙のタイミングでなされ、決定機へ結びつく場面が頻発となる局もあった。

キャッチすると敵陣へ切り込んだ。冷静に敵の動きを見ながら、時には大胆に相手をかわし、ゴール手前30（政四）のプレーで、またも流れを完全に引き寄せられたのだ―。

前半は持ち前の組織プレーを発揮できずに、7―0で折り返す。ところが、後半に入ると、前半安全にいた中央のラインが崩れ始め、そこを神に込まれ同点に。

勝負はここからだった。相手のキックオフ。チームを引っ張る熊谷主将が絶妙のタイミングでなされ、決定機へ結びつく場面が頻発となる局もあった。

キャッチすると敵陣へ切り込んだ。冷静に敵の動きを見ながら、時には大胆に相手をかわし、ゴール手前30（政四）のプレーで、またも流れを完全に引き寄せられたのだ―。

INSIDE VIEW

自転車愛好会
小林摂（おさむ）さん
法学部法学科２年

自転車で風を切って走るとき、周りがいつもと違った世界に変わること。「自転車愛好会」は、その世界に憑かれた人たちの場所。「自転車で走っている気分が味わえる」と手がその人の前を走って風よけになってくれた。走ることが本能になっているのかも。小林さんは自転車の魅力を笑顔で話してくれた。

自転車愛好会は、レース班とツーリング班に分かれている。彼が所属しているレース班の練習は週三回。

「基礎トレーニングの学内練習と、坂道を上り下りする学外練習があります。練習では技術だけでなく、つらさを乗り越える精神力も養われますね」

その成果を発揮する場が、公道を走るロードレースや山道を登るクロスカントリーだ。

「練習もレースも真剣勝負。レギュラー争いは死活です。でも、レースで、仲間と勝ち負けを競うために、他の選手の入念な準備をしあうことで、結束力も高まります」

楽しそうに話す傍ら、その真っすぐな瞳から、仲間がいることの大切さが伝わってきた。

「つらさや達成感を仲間と共有することで、僕は人間的に成長できた気がします」

練習やレース中、苦しいと思うことは少なくない。だがその分、やり遂げたときには、大きな喜びが生まれる。そして同じ喜びを分かち合える仲間がいるのだ。（大野宏美）

その他の結果

卓球部　関東学生春季4部リーグ戦男子▽5勝0敗1位、昇格

剣道部　関東学生剣道選手権大会個人戦男子▽青木貴（政二）全日本学生剣道選手権大会出場決定

ウエイトトレーニング同好会　関東学生パワーリフティング選手権大会▽女子60kg級優勝、男子100kg級3位

射撃部　春季東都十大学定期戦▽4R団体、3P団体1位、春季東都十大学定期戦▽4R団体1位

バスケットボール部　四大戦▽3勝0敗、優勝

ゴルフ部　関東大学春季トーナメント▽ブロックB抗戦男子▽3位、関東大学春季トーナメント▽ブロックA抗戦男子▽4位

ソフトボール部　東京都選手権大会男子▽1勝2敗5位、全日本大学ソフトボール選手権大会東京都予選会男子▽対明治大戦、17―11

デスクの片隅

新聞作りは自分の任された記事を書いて、ひとつの形に仕上げる。初めはそれの繰り返しだ。

▼慣れは、自分の仕事さえきっちりやればよいという気持ちを芽生えさせる。それは組織を弱体化させる。

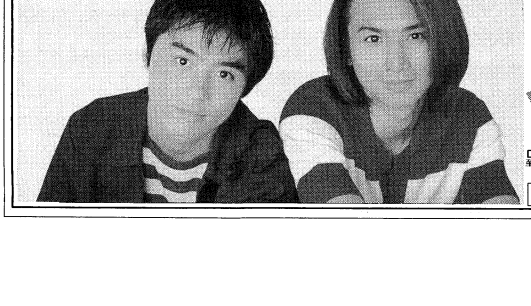
▼他のサークルやゼミでも同じことだ。一人一人が割り当てられた自分の配事には自信を持ってするのもしれない。

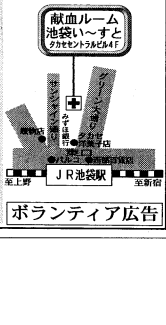
▼他のサークルやゼミでも同じことだ。一人一人が割る時間はもちろん、それらの中での優劣づけも避ける。その中で協力していく気持ちを芽生えさせる。それは組織を強化するために、他の選手の入部を歓迎することだ。

▼慣れは、自分の仕事さえきっちりやればよいという気持ちを芽生えさせる。それは組織を弱体化させる。

▼他のサークルやゼミでも同じことだ。一人一人が割る時間はもちろん、それらの中での優劣づけも避ける。その中で協力していく気持ちを芽生えさせる。それは組織を強化するために、他の選手の入部を歓迎することだ。

到来する高齢化社会に欠かせないのが
若い人たちの協力です。　日本赤十字社





ボランティア広告

Hair salon
中央理容専門学校ヘア・サロン
授業の一環として学校内でヘア・サロンを行っています。男女問わずカット・パーマ等の技術を心をこめて行っております。
詳しくは、電話でお問い合わせ下さい。
予約受付時間　9:00～16:00(月～土)
5月8日(水)～営業開始
要予約　03(3950)8809
営業時間　9:15～14:30
学習院大生のみ　カット500円　・　パーマ1000円

メール予約もOK！
http://www.chic.ac.jp

砂入り人工芝
貸テニスコート
学生サークル　1時間 3000円
・場　所　大久保駅３分　新大久保駅徒歩６分
・日　時　毎日　7:00~19:00（何時間でも）
・年中無休
トマステニス
〒169―0073
東京都新宿区百人町2―23―27
電話　03-3362-2271
FAX 03-3362-2274

写真にも良い写真と悪い写真があるのをご存じですか
特に就職用写真は第一印象が大切。高品質の写真をつかいましょう。是非一度当店でお試し下さい。
各種記念写真も承っております。
一部、学割有り。
目白駅出て左へ徒歩１分
飯島写真場
TEL03-3953-5055 木曜定休